

施策評価調書(4年度実績)

政策体系	施策名	構造改革の更なる加速	所管部局名	農林水産部	施策コード	Ⅱ-1-(1)
	政策名	挑戦と努力が報われる農林水産業の実現	関係部局名	農林水産部	長期総合計画頁	77

【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③	④
取組項目	水田の畑地化による 高収益な園芸品目等への生産転換	全国トップレベルの肉用牛産地づくり (おおいた和牛日本一プロジェクト)	循環型林業の確立による 林業・木材産業の成長産業化	水産業の資源管理の強化と成長産業化
取組No.	⑤			
取組項目	スマート農林水産業の実現			

【Ⅱ. 目標指標】

指 標	関連する 取組No.	基準値		4年度			6年度	目標達成度(%)												
		年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	25	50	75	100	125								
i	農林水産業による創出額(億円)	①②③ ④⑤	H25 2,134	2,502 (R3)	2,260 (R3)	90.3%	2,650 (R5)													
	農業産出額	①②⑤	H25 1,276	1,442 (R3)	1,228 (R3)	85.2%	1,534 (R5)													
	うち園芸	①⑤	H25 574	680 (R3)	564 (R3)	82.9%	744 (R5)													
	うち畜産	②⑤	H25 414	517 (R3)	465 (R3)	89.9%	550 (R5)													
	林業産出額	③⑤	H25 181	223 (R3)	245 (R3)	109.9%	240 (R5)													
	水産業産出額	④⑤	H25 386	441 (R3)	362 (R3)	82.1%	462 (R5)													
	付加価値額、交付金等	①②③ ④⑤	H25 291	396 (R3)	425 (R3)	107.3%	414 (R5)													

【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理 由 等	平均評価
i	<p>R3年の創出額については、園芸と畜産で生産拡大が進んだことに加えて、コロナの影響で低迷していた価格の回復、さらにはウッドショックによる木材価格の上昇もあり、農林水の全ての分野で産出額が上昇し、2,260億円と前年比+158億円の大幅な増加となった。</p> <p>農業では、増頭が進む畜産において、肉食需要の回復に伴う肉用牛価格の上昇等により、1,228億円(+20億円、+1.7%)と2年連続の増加となったものの、コロナ禍における巣ごもり需要の落ち着きにより価格高騰がおさまった園芸において、産出額が低下したことから達成度は85.2%となった。林業では、米国の住宅需要の高まりなどからウッドショックが発生したことによって、原木価格が上昇し、産出額が245億円(+70億円、+40.0%)と大幅な増加となり、達成度は109.9%となった。水産業では、肉食需要の回復に伴う価格の上昇に加え、モジャコ不漁によりブリ価格が高騰したため、362億円(+30億円、+9.0%)と増加したものの、漁獲の半分を占めるイワシ類の漁獲量減などの影響もあり、達成度は82.1%となった。</p> <p>(農林水産業産出額の国の公表が約1年後となることから、R4年度の目標値・実績値にはR3年の数値を記載している。)</p>	概ね達成

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・水田の畑地化による高収益な園芸品目等への生産転換に向けて、必要な生産資材等を支援した結果、目標を超える117haを転換できた。
②	・肉用牛ブランド化推進のため、著名人をPR大使として、SNSによるイベント等を行った結果、「おおいた和牛」取扱店が281店舗(+35店舗)に拡大した。 ・第12回全共においては、各地区で候補牛の出品指導を行い、全区で出品した結果、若雌の部で首席となり農林水産大臣賞を獲得した。さらに県団として出品団体賞を受賞した。
③	・木材の素材生産量の増加に向けて、事業体に対し高性能林業機械の導入等を支援するとともに、路網整備や施業地の集約化に取り組んだ結果、認定林業事業体の主伐生産性は10.7m ³ /人・日(+0.3)となった。
④	・新型生けす(銅合金製浮沈式養殖生けす)を設置し、有効性検証を開始した。1m ² の網材で付着物量を比較調査したところ、銅合金製素材の付着物削減効果を確認できた。
⑤	・「大分県スマート農林水産業推進方針」に基づき、各部門毎にICT等の先端技術を活用した生産性向上・省力化技術を推進した結果、スマート農林水産業技術の導入経営体数が646経営体(+39経営体)となった。

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(4年度事業)	事務事業評価	
		成果指標の達成率(%)	掲載頁
①	農地中間管理推進事業	99.7	162
	園芸産地づくり計画策定・推進事業	154.0	163
②	おおいた和牛流通促進対策事業	108.1	164
	第12回全国和牛能力共進会対策事業	102.0	165
③	林業事業体強化推進事業	85.2	166
④	海洋環境保全型養殖推進事業	100.0	166
	資源造成型栽培漁業推進事業	90.1	167
⑤	スマート農林水産業技術普及拡大事業	105.9	168

【VI. 施策に対する意見・提言】

○第6回大分県農業総合戦略会議(R5.3)
・大分県農業総合戦略会議で取りまとめた行動宣言の着実な実行に向けて、具体的な取り組みを行っているが、今後は、さらに取り組みを加速させる必要がある。

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
B	<ul style="list-style-type: none"> ・農業総合戦略会議で取りまとめた行動宣言に基づき、着実に実行に移しているところであり、白ねぎやピーマンなど短期集中県域支援品目の産地拡大の成果が出てきている。引き続き、生産者、農業団体、市町村による一体となった取り組みをしっかりと後押しするため、産地拡大、担い手育成から営農指導、流通・販売強化、農協改革まで総合的な対策を講じ、農業の成長産業化を図る。 ・園芸では、短期集中県域支援品目の行動計画の達成に向けて、産地が抱えるボトルネックを解消する取り組みに対して、集中的かつ総合的に支援し、産地拡大や品質、単収の向上を進める。R5年度からこねぎの夏季生産性向上、出荷調整効率化に取り組み、生産者の所得向上を図る。 ・畜産では、全国トップレベルの肉用牛産地づくりと耕畜連携の促進に向けて、キャトルステーションの整備に対して支援する。また、繁殖牛の導入支援による生産基盤の強化を図るほか、北海道全共での日本一奪還に向けた取り組みを強化する。また、大消費地における「買える・食べられる」店舗を起点とした情報発信を強化するとともに、デスティネーションキャンペーンを見据えた県内消費の拡大により「おおいた和牛」のブランド化を推進する。 ・林業では、循環型林業の推進に向けて、生産性の向上を目指す事業体に対し、高性能林業機械の導入の支援を行うとともに、早生樹造林の推進や造林作業の省力化、大径材の活用促進を図る。 ・水産業では、漁船漁業の振興に向けて、デジタルツールを活用した漁獲量報告体制を構築するとともに、放流用種苗生産施設(漁業公社)の整備を行う。また養殖業の成長産業化に向けては、ブリ人工種苗供給体制の確立、新加工場整備の推進など生産・流通体制の強化を図る。加えて、県外量販店・飲食店と連携した販路拡大を推進する。